



## ボッシュ、ネットワーク化で 2016 年も成長軌道を保持 AI(人工知能)で IoT 事業を強化

2017 年 1 月 27 日

PI 9490 RB ML/KB

- ▶ 2016 年の売上高は 731 億ユーロに増加
- ▶ EBIT(支払金利前税引前利益)は約 43 億ユーロ
- ▶ 事業セクター、モビリティソリューションズの成長率は自動車生産の伸びを上回る
- ▶ 研究開発費は 66 億ユーロに増加
- ▶ AI の研究センター新設に 3 億ユーロを投資
- ▶ インテリジェントなアシスタントとパーソナルサービスの市場は数十億ユーロ規模に
- ▶ ボッシュの CEO デナー:「ボッシュは、創業以来かつてない変革を遂げようとしています」

シュトゥットガルト(ドイツ) – 2016 年、ボッシュ・グループは再び増収を達成しました。暫定決算報告によれば、昨年の売上高は名目で前年比 3.5% 増の 731 億ユーロでした。為替調整後の成長率は 5.4% です。為替変動がマイナスに影響し、売上高を 13 億ユーロほど押し下げる結果となりました。ボッシュ取締役会会長(CEO)のフォルクマル・デナーは、「環境に恵まれなかったところではありますが、2016 年に想定した成長率を達成できました」と述べ、さらに「ボッシュは、創業以来かつてない変革を遂げようとしています。ボッシュは、産業、市場、そしてテクノロジーの変革を積極的に形づくろうとしています」と語りました。IoT によるモノのネットワーク化の実現とモビリティの電動化への移行を中心に、ボッシュは数十億ユーロにのぼる先行投資を行っています。2016 年にボッシュの研究開発費は約 66 億ユーロに達しました。ボッシュの財務担当取締役(CFO)兼ボッシュ取締役会副会長であるシュテファン・アーセンケルシュバウマーは、「今日、私たちが達成した成果が、明日の成功のための投資となります」と述べています。ボッシュは 2016 年に、支払金利前税引前(EBIT)ベースで約 43 億ユーロの営業利益を確保しました。ボッシュは、IoT をリードするサプライヤーを目指します。私たちはまた、AI によるユーザーアシスタント分野の成長の可能性が非常に大きいと見ています。「モノのインターネット化(IoT)はパーソナル化へと向かいつつあります。AI(人工知能)の助けを借りて、私たちは IoT を身近な存在に変えます」とデナーは述べています。このため、ボッシュは約 3 億ユーロを投じて AI の研究センターを新設し、IoT 分野の専門知識をさらに強化する計画です。

Robert Bosch GmbH  
Postfach 10 60 50  
D-70049 Stuttgart

E-mail   Melanie.Loriz@bosch.com  
Phone    +49 711 811-12798  
Fax       +49 711 811-5185075

Corporate Communications,  
Brand Management, and Sustainability  
Senior Vice President: Dr. Christoph  
Zemelka  
www.bosch-press.com

### AI(人工知能):研究センター新設に3億ユーロを投資

ボッシュの新しいAIセンター(BCAI: Bosch Center for Artificial Intelligence)は2017年に活動を開始します。センターの目的はAI分野の専門知識を強化することです。「ボッシュは[センサー](#)によって、モノに感覚機能を持たせることに成功しました。次の目標は、モノに学習し、インテリジェントに行動する能力を身に付けさせることです」。ボッシュの取締役会メンバーとして研究開発・先端エンジニアリングも担当するデナーはこのように述べています。「今から10年もすれば、AI抜きで作られるボッシュ製品はほとんどなくなっているでしょう。製品自体がAIを内蔵するか、少なくともその開発と製造過程でAIが重要な役割を担うようになるはずで」。5年以内にAIを備えた製品がボッシュの売上高の10%を占めるものと見られます。BCAIはインド(バンガロール)、米国(パロアルト)、そしてドイツ([レニンゲン](#))に拠点を置き、当初の従業員は合わせて100名ほどを予定しています。2021年までにボッシュは3億ユーロを投資し、センターを拡張します。それと並行してセンターで働く従業員数を数倍以上に増やす計画です。

### AIによるユーザーアシスタントのソリューション:数十億ユーロの市場

ボッシュにとってIoTのパーソナル化は、IoTの次のレベルへの進展を意味します。「ボッシュはAIによって、モノを[インテリジェントなアシスタント](#)に変えます。製品が私たちのパートナーに、仲間に、そしてパーソナルアシスタントのような存在になります」とデナーは言います。米国の市場調査会社 Tractica では、AIによるデジタルアシスタントの利用者が2021年までには3.5倍以上に増加すると予測しています。「デジタルアシスタントはお客様とのインターフェースになります。ネットワーク化された製品を通じて、ボッシュはお客様とダイレクトなつながりを持つことができます。一人ひとりのユーザーをよりよく知ること、私たちはお客様の個人的なニーズにより即したサービスを提供できます」とデナーが補足しました。1月にラスベガスで開かれたCES国際家電ショーでボッシュが展示した製品のひとつが、[家庭用ロボットの Kuri](#)です。このロボットの開発に当たってボッシュが重視したのがパーソナル化、すなわち人と交流する能力を持たせることでした。ボッシュは、スマートキッチンの実現を支援するアシスタントの [Mykie](#) もCESで発表しました。Mykie はたとえば、冷蔵庫の中身を把握し、買い物リストを自動的に作成したり、調理を助けたりします。CESでボッシュはそのほか、「クルマ」がパーソナルアシスタントになるとどうなるかを紹介する[コンセプトカー](#)を展示しました。ボッシュと Prognos が共同でまとめた新しい[調査報告書](#)では、車両のネットワーク化によりドライバーは年間100時間近い時間を、車内でリラックスして過ごし、あるいはもっと有効な目的に使用できるようになると予測しています。

### 未来のモビリティ:「ビジョン・ゼロ」

ストレスゼロ、事故ゼロ、エミッションゼロ:これがボッシュの描く未来の道路交通のビジョンです。デナーは、「事故ゼロ、エミッションゼロ、そしてストレスゼロが、私たちの目指す未来のモビリティの姿です」と述べています。技術的にいうなら、これは[自動化](#)、[電動化](#)、それに[ネットワーク化](#)を意味します。デナーは続けます。「私たちはモビリティの変革を積極的に定義しようとしています。ボッシュはモビリティソリューションのリーディング

サプライヤーを目指します。また電動化モビリティ分野でも業界をけん引したいと考えています」。ポッシュは電動化の普及の前提となるコストダウンに向けて、[バッテリー技術改良](#)のための研究に取り組んでいます。シュトゥットガルト近郊のフォイヤバッハに、ポッシュはバッテリーキャンパスを設立、バッテリーセルとバッテリーパックの開発活動を集約させました。バッテリー技術のスペシャリストと300人のスタッフが一丸となって、未来のセル技術を量産可能な段階にまで開発する作業に取り組んでいます。ポッシュは毎年、4億ユーロほどを電動化モビリティのために投資しています。電気モーター、パワーエレクトロニクス、バッテリーなど、生産テスト済みのコンポーネントの多彩なポートフォリオをもとに、ポッシュはこれまでに30件の受注を獲得しました。「ポッシュは電動化に欠かせない[主要コンポーネント](#)をすべて取り揃えています。私たちはすべての市場で活動しています。私たちの顧客リストには、長い歴史を持つ自動車メーカーと、[新たに市場に参入した企業](#)が名を連ねています。ポッシュは電動化モビリティ時代の到来にすぐにも対応できる用意ができています」とデナーは述べました。

伝統的な内燃機関のさらなる改良のためにも、ポッシュは投資を続けます。目標のひとつは自動車用内燃機関に適し、資源の節減と、自動車のカーボンニュートラル化に寄与する合成燃料の実用化です。「2025年の時点で、世界の新車の80%以上はなお内燃機関を搭載していると予想されています。といっても、今と同じエンジンでというわけではありません。未来の内燃機関は地球温暖化防止に重要な役割を果たすようになるでしょう」とデナーは予想しています。

### 2016年のビジネスセクター別業績動向

為替相場が不利な方向に振れ、その影響が各事業セクターの売上高にも影響を及ぼしました。「とはいえ、そうした影響を調整した後で、産業テクノロジーを除くすべての事業セクターが増収を記録することができました」(アーセンケルシュバウマー)。[モビリティソリューションズ](#)事業セクターは2016年に名目ベースで5.5%の成長を達成、これは世界の自動車生産の伸びを上回っています。為替調整後の成長率は7.0%でした。暫定決算報告によれば、2016年の売上高は440億ユーロに達しました。ガソリン燃料噴射システム関係では、高圧インジェクターの販売が2億5,000万台と、これまでの最高記録を更新しました。ドライバーアシスタンスとインフォテインメントシステムも非常に好調でした。2016年に[消費財](#)セクターは売上高を前年比2.8%伸ばし、177億ユーロを達成しました。為替調整後の成長率は6.2%でした。電動工具部門と家電・住宅機器のBSH Hausgeräte GmbHは2016年に、前年に引き続き多数のネットワーク化製品をリリースしました。[エネルギー・建築関連テクノロジー](#)事業セクターの売上高は52億ユーロ、前年比伸び率は0.8%(為替調整後で3.2%)でした。サーモテクノロジー、セキュリティーシステム、およびサービスソリューションの各事業部は、[スマート暖房システム](#)や[ビデオテクノロジー](#)、緊急支援要請サービスの[eCall](#)やコンシェルジュサービスなどのネットワーク化ソリューションによって、いずれも売上げを伸ばしています。[産業テクノロジー](#)事業セクターの売上高は、暫定数字ながら前年比5.1%減少し、63億ユーロに留まりました。為替調整後の減収率は4.5%でした。ドライブ&コントロールテクノロジー事

業部は、特に中国、ロシア、ブラジルなどの市場で引き続き逆風にさらされています。  
パッケージングテクノロジー事業部の2016年の業績は、ほぼ前年並みでした。

### 2016年の地域別業績動向

暫定決算報告によると、欧州市場は2016年非常に好調でした。売上高は前年比3.4%（為替調整後で4.8%）増加の386億ユーロにのびりました。[北米](#)の売上高はほぼ横ばいの124億ユーロでした。正確には前年比2.0%減、為替調整後では1.8%の減収となります。[南米](#)では、ボッシュ・グループは為替調整後で2.1%の増収を達成できました。ただし名目ベースの売上高は13億ユーロで、前年比5.7%の減収でした。[アジア太平洋地域](#)（アフリカを含む）でボッシュは、2016年に為替調整後で12%の増収を達成しました。名目ベースでは8.1%の増収で、額にして208億ユーロでした。

### アジア太平洋地域、中部および東ヨーロッパ、ドイツで従業員が増加

ボッシュ・グループの全世界の従業員は、2016年12月31日時点で約39万人です。1年間で約1万5,000人増加しました。特にアジア太平洋地域と中部および東ヨーロッパで増加しました。ドイツ国内の従業員数は前年同期に比べ約2,100人増加しました。

### 2017年の展望 - 成長は穏やかな一方、大きな変動の可能性も

ボッシュは2017年について、世界経済の成長率が2.3%程度にとどまると予想しています。グローバル規模で革新的なテクノロジーとサービスを提供するボッシュは、米国と欧州の政治情勢に絡んで、経済にリスクが及ぶ可能性があると考えています。2017年にボッシュは成長軌道を引き続き維持し、活動するすべての分野で市場の伸びを上回る成長を達成したい考えです。すべての事業部で競争力を高め、収益のさらなる改善を目指します。

### ビデオ:

[How things become partners – the IoT's getting personal](#)

[Research campus in Renningen](#)

[Smart assistant: the Kuri home robot](#)

[The connected car as a third living environment](#)

[Bosch connected solutions: from Mykie to the connected car](#)

[The connected car is becoming a personal assistant](#)

### 報道関係対応窓口:

René Ziegler 電話: +49 711 811-7639

Melanie Loriz 電話: +49 711 811-12798

Nicole Neuer 電話: +49 711 811-11390

## 世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2016年の従業員数は約39万人(2015年12月31日現在)で、暫定決算によると2016年の売上高は731億ユーロを計上しています。現在、事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・建築関連テクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社 440 社、世界約 60 カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売／サービスパートナーを含む世界的な製造・販売ネットワークは約 150 カ国を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界約 118 の拠点で 5 万 5,800 人の従業員が研究開発に携わっています。私たちボッシュ・グループはコネクテッドライフに向けたイノベーションの提供を戦略的な目標に定め、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。

ボッシュの起源は、1886年にロバート・ボッシュ(1861~1942年)がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の92%は慈善団体であるロバート・ボッシュ財団が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っており、残りの株式は創業家であるボッシュ家とロバート・ボッシュ GmbH が保有しています。

さらに詳しい情報は以下を参照してください。

[www.bosch.com](http://www.bosch.com) ボッシュ・グローバル・ウェブサイト (英語)

[www.bosch-press.com](http://www.bosch-press.com) ボッシュ・メディア・サービス (英語)

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター (ドイツ語)

[www.bosch.co.jp/](http://www.bosch.co.jp/) ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト (日本語)

<https://twitter.com/BoschJapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター (日本語)

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック (日本語)

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube (日本語)